

日本語と中国語のアスペクト体系の異同再考¹

Contrast between the Aspectual Systems in Japanese and Chinese Revisited

劉 琛琛(杭州師範大学)

Liu Chenchen

1、はじめに

日本語と中国語のアスペクトについて、数多くの研究成果が挙げられる。一般的に、日本語では、動詞のスルとシテイルとの形式で完成相と継続相というアスペクト的な意味を表し、中国語では、動詞につく“了、着、过”によってそれぞれ完成相、継続相、経験相というアスペクト的な意味を表す。しかし、既に日本語と中国語のアスペクトに異議が持たれていないとは言えないだろう。例えば、日本語のアスペクトと中国語のアスペクトは同じ意味を表しているかどうか、動詞の諸文法的な形式によって表されたアスペクト的な意味は何れの場合でも文のアスペクト的な意味になるかなど問題について、更に追究する余地があると思われる。

2、アスペクトとアスペクチュアリティ

2.1 アスペクト

アスペクトについて、まず次のような定義が挙げられる。

いくつかの動作(変化、状態)の間の外的な時間的な関係の中で、動作(変化、状態)それ自身が持っている、内的な時間構造を捉える。(奥田靖雄 1993)

アスペクトは、時間軸上の一時点(基準時点)との時間的な関係づけにおいて顕在化する、動作の内的な時間構造(動作の時間的な展開の性格)の、動詞の語形変化による表現である。(須田義治 2002, p.44)

时态表现事件(event)处于某一阶段的特定状态。时态的观察角度可以是各种各样的,既可以从事件发生前观察,也可以从事件过程中的各个阶段观察,还可以从事件完成后观察,等等。(龚千炎 1995, p.5)

¹ 本論文は 2010 年度中国浙江省教育厅科研項目『日中語言“詞体(アスペクト)”表現形式的对比研究』の研究成果の一つであり、項目番号は Y201018873 である(本論文が 2010 年度中国浙江省教育厅科研項目“日中語言“词体”表現形式的对比研究”の成果之一、項目号为 Y201018873)

体是观察时间过程中的事件构成的方式。(戴耀晶 1997, p.5)

諸定義から分かるように、日本語のアスペクトと中国語のアスペクトが異なっており、日本語の場合、アスペクトは出来事のプロセスを無視し、全体をひとまとまりとして捉えているか、または出来事のプロセスを捉えているかの違いを表しているのに対し、中国語の場合、アスペクトは時間の流れにおける出来事の構成の方式を捉えているため、出来事のプロセスも出来事の全体も出来事の効力・効果まで捉えることが出来る。従って、日本語のアスペクトは主に完成相と継続相との対立を表しているが、中国語のアスペクトは完成相、継続相、経験相、パーフェクトのいずれも表現することができる。

アスペクトの表現形式という点、日本語では、一般的に動詞のシテイル形式とスル形式で継続相と完成相の対立を表しているのに対し、中国語では、動詞の語形変化がないため、主に、動詞に後続する助詞“了”、“着”、“过”によって完成相、継続相、経験相が表現されると思われている。しかし、日本語ではアスペクトと異なるカテゴリーとされるパーフェクトは中国において、アスペクトのカテゴリーに入る。なぜなら、コムリー(1975)と工藤(1995)で述べられたように、パーフェクトを動作パーフェクト、状態パーフェクト、経験のパーフェクトに分けることができ、何れも時間の流れにおける出来事の構成の方式に見做せるからである。

従って、日本語と中国語のアスペクト体系が次のようにまとめられる。

	日本語	中国語
完成相	完成	
	未完成	
継続相	動作の継続	
	状態の継続	
パーフェクト	アスペクトではない	効力(動作パーフェクト(工藤 1995、須田 2003))
		結果(状態パーフェクト(工藤 1995、須田 2003))
		事実(経験のパーフェクト(コムリー 1976)) = 経験相

表 1

2.2 アスペクチュアリティー

アスペクトが動詞の語形変化(中国語では動詞につく助詞)による表現であるため、表されたアスペクト的な意味は多くの場合、文のアスペクト的な意味となる。しかし、動詞の諸形式によって表されたアスペクト的な意味と文のアスペクト的な意味とは対等的な関係

ではない。それは、文のアスペクト的な意味を決定するものには、動詞の諸形式以外に、動詞の語彙的な意味、限界性、段階性、回数性、持続性などもあるからである。それはアスペクチュアリティーと呼ばれており、動詞の文法的な形式と出来事の時間的な展開の仕方を表す言語的な諸手段によって構成され、文におけるアスペクト的な意味とその表現手段との体系である(須田 2002)。つまり、アスペクトは「単語における語論的なカテゴリー(文法的な形態論的なカテゴリー)」であるのに対し、アスペクチュアリティーは「文における文論的なカテゴリー(構文・機能的なカテゴリー)」(須田 2002, p.42)でもあり、意味的なカテゴリー(文のアスペクト的な意味)でもある。そのため、アスペクチュアリティーは意味的なカテゴリーであるため、殆どの言語に見られるが、形態論的なカテゴリーであるアスペクトが持たれていない言語は存在する可能性がある。須田(2002)では、アスペクト、パーフェクトを含む動詞の諸文法的な形式はアスペクチュアリティーの中核であり、動詞内的な言語的な手段によるもの(限界性、アクチオンズアルト、段階性)と動詞外的な言語的な手段によるもの(回数性、持続性を表す副詞など)を含む文の対象的な内容はアスペクチュアリティーに欠かせないものであると指摘されている。

例えば、次の例を見てみよう。

(1) a. お母さんへの手紙を書いている。

b. 彼は本を何冊も書いている。

動詞「書く」の持つ語彙的な意味には時間的な展開が含まれているため、一般的に「書いている」という文法的な形式で動作の過程が継続しているというアスペクト的な意味を表すと言える。例文(1a)のように、動詞の文法的な形式以外に、段階性や回数性など言語的な手段がないため、動詞の文法的な形式によって表されたアスペクト的な意味は文のアスペクトな意味となる。しかし、例文(1b)のように「何冊も」によって量的に限界性が作り出されていれば、「何冊も + 書いている」によって文のアスペクト的な意味は動作の結果が事実として基準時点において存在するというパーフェクトの意味となり、アスペクチュアリティーという文論的なカテゴリーとなる。

中国語でも同じことが見られる。

(2) a. 上午下了一场大雨。

今朝、大雨が降った。

b. 天上下起了毛毛细雨。

こぬか雨が降り始めた。

動詞に後続する助詞の“了”は一般的に動作が既に発生した、所謂「完整性」(戴耀晶

1997) を持つ完成相のアスペク的な意味を表すが、例文(2b)のように動詞に“起”のような段階性の意味を持つ補語が生じていれば、“下起了”によって文に段階性が付け加えられ、アスペクチュアリティーとなる。

そこで、日本語においても中国語においても、アスペクトと異なるカテゴリーであるアスペクチュアリティーを次のように初歩的にまとめられる。

アスペクチュアリティー

動詞の諸形式によって表されるアスペクト (形態的なカテゴリー)	動詞内的な言語的手段と動詞外的な言語的手段 (意味的なカテゴリー)
完成相	パーフェクト(日本語の場合)
継続相	段階性
パーフェクト(中国語の場合)	反復性
	持続性

表 2

3. 日本語のスルとシテイル

3.1 スルとシタ

日本語では、テンスは通常、動詞のル形とタ形によって表され、ル形は非過去を表すのに対して、タ形は過去を表す。そこで、スル形式は動作の未発生を表すのに対して、シタ形式は動作の既発生を表す。これはスル形式とシタ形式の基本的なアスペク的な意味と言える。

(3)a. 花が咲く。

b. 花が咲いた。

(4)a. 玉ねぎを切る。

b. 玉ねぎを切った。

動詞の語彙的な意味によって、スル形式は動作・変化の未発生(例(3a)(4a))を表す以外、動作の反復、習慣、常識、自然現象なども表せるが、シタ形式は動作・変化の既発生を表す(例(3b)、(4b))以外、事実(「昨日彼はカレーを食べた」須田 2002)も表せる。しかし、動作の反復、習慣、常識、自然現象、事実などはスル形式とシタ形式という形態的なカテゴリーによって表されるというより、むしろ動詞外的な言語的手段やコンテキストによって表されるといったほうが適当であろう。つまり、スル形式とシタ形式の表す基本的なアスペク的な意味は依然として未完成相と完成相である。

3.2 シテイルとシテイタ

須田(2002)ではシテイル、シテイタの表す具体的な過程継続と非限定的な反復の過程継続、及び結果的な状態²をアスペクトとし、基準時点における動作効力の存在、動作の客体に残る結果や効果などはパーフェクトとしている。つまり、前者はアスペクトのカテゴリーに属しているが、後者はアスペクチュアリティーのカテゴリーに属していると言える。

(5)丸木橋をわたると、右に三重塔が、左に紅葉の林があって、その奥に百五段の苔蒸した石段がそびえている。(金閣寺)

(6)東よりの教室の窓から顔を出した二三の女教師も、一緒になって手を叩いていた。
(破戒)

(7)自動車は京浜国道を走っていた。窓から入ってくる風は冷たかった。(あした来る人)

(8)或いは死後に身体に働いた雨と風の偶然によって、右或いは左に、折れ曲って倒れていた。(野火)

(9)既にこの年の三月には、ザントという学生が、進歩主義者を散々に誹謗した評論家コツェブーを、ロシアのスパイであるとして暗殺している。(須田 2000)

4. 中国語の“了”、“着”、“过”

中国語のアスペクトについて、呂叔湘(1999)は“方事相—着”、“既事相—了”、“起事相—起来”、“继事相—下去”、“先事相—去、来”、“后事相—来、来着”、“一事相—动词+数词+量词”、“短事相—动词重叠、动词+一+动词”、“反复相—动词的 AABB 形”の九つに分けているのに対して、戴耀晶(1997)はまず“完整体”と“非完整体”とにわけ、更に“完整体”を“实现体—了”、“经历体—过”、“短时体—动词重叠”に、“非完整体”を“持续体—着”、“起始体—起来”、“继续体—下去”に下位分類している。また、木村(1982)では「完成—了」、「持続—着」、「始動—起来」、「継続—下去」、「終結—完」、「経験—过」との六つに分けられている。

(10) 阿Q放下烟管，站了起来。(呐喊)

阿Qはキセルをおいて、立ちあがった。

(11) 终于，她还是鼓着全身的勇气读了下去。(青春之歌)

ついにかの女は、全身の勇気を奮い起こして、読みはじめた。

しかし、例文で観察されるように、“起来”“下去”“完”などと動詞の間に“了”“得/不”

² 須田(2002)では、結果的な状態を、動作の内的な時間構造に含まれる変化の結果としての状態をアスペクト、変化が、基準時点に先行して、起こっているのをパーフェクトと分けている。

などが挿入されることができ、完全に動詞の語尾として定着しておらず、それにため、“起来”“下去”“来”“去”“完”などは場面の段階性³を表しているが、形態論的なカテゴリーの表現手段ではなく、補語として動詞に付加されるためアスペクチュアリティーに属する動詞外的な言語的な手段である。それに対し、“了”“着”“过”は動作・変化が発生したかどうか、動作・状態の過程が継続しているかどうか、動作・変化の結果・効力が存在するかどうかなど決めるのに欠かせないものであるため、アスペクトという形態論的なカテゴリーの表現手段⁴と認められている。そのため、“了”“着”“过”と同様に扱うことはできない。

4.1 “V了”、“VN了”

中国語の“了”は動詞に後続するか、文末(通常、名詞を指す)に後続するかによって、“了₁”と“了₂”に分けられている。諸研究者によって分類の仕方や文法的な機能の説明は異なるが、どちらの“了”にしても、完成相、パーフェクト(結果、効力、事実)を表すのであれば、アスペクトマーカとなるが、モダリティーの意味を表すのであれば、アスペクトマーカとならない。例えば、副詞の“太”と共起する“了”であれば、通常モダリティーの意味しか表さない(例えば“太好了”)。

(12)她丈夫又有了新欢，不要她了，她一气吃了安眠药。(青春之歌)

夫が新しい女をつくって、彼女を棄てたんだ。それでかっとして、睡眠薬を飲んだ。

(13)我们从门缝里看见来了好多人，他们狠命扯着晓梦的妈妈，还在她脖子上挂了一块大牌子，说，说她是特务！(轮椅上的梦)

扉のすき間から見てただけど、すごくたくさんの人が来て、力まかせに曉夢のママを引っ張り出して、そのうえ首に大きな看板をぶら下げて……ス……スパイだっさ！

(14)让倪吾诚回来看看吧，两个孩子都死了！这样一定能够打击他。(活动变人形)

帰宅してみたら子供たちが死んでいる！彼にとってこれ以上のショックはあるまい。

(15)叶子红了。

葉っぱが赤くなった。

³ 段階性は、同じ出来事の展開過程の部分やさしだすものであり、過程の始まってからしばらくの間を表す始まりの段階、始まりの段階の後の続きの段階、過程の終わりに向かう終わりの段階を含んでいる。(須田 2003)

⁴ しかし、説明文や学术论文、新聞の報道、小説の地の文などにはこれらのアスペクトマーカが殆ど現れないことも見られる。これも中国語のアスペクト研究に非常に重用だと思われるが、今後の研究課題としたい。

(16)想回一趟陕北，回我当年插队的地方去看看，想了快十年了。(插队的故事)

当時私が移住した陝西省北部のあの地をもう一度訪れてみたいと思うようになってから、かれこれもう十年になる。

これらの例文で観察されたように、アスペクトマーカの“了”は基本的に動詞に後続し、一般的に動作・変化が生じたという完成相を表すが、例文(15)のように形容詞に後続する場合であれば、変化が生じたという意味より結果の継続という意味のほうが強いため、状態パーフェクトの意味となりやすい。しかし、例文(16)の名詞“十年”の後に生じている“了”は動詞外的な言語的な手段である。それは、動詞“想”につく“了”は動作が生じたことを表すアスペクトマーカであるが、文末の“了”の出現によって文全体は基準時点における効果の存在という意味になったからである。

しかし、全ての名詞につく“了”はアスペクチュアリティに属する言語的な手段ではない。動詞の直後に“了”がなければ、次の例文(18)のように名詞につく“了”もアスペクトマーカである。また、補語を伴う動詞フレーズにつく“了”もそうである。

(17)六妹也长大了许多，俨然是一个大姑娘了。(关于女人)

六妹もずいぶん背がのびて、年ごろの娘になっていた。

(18)她也就很高兴的住下了。(关于女人)

彼女も喜んで承知し、住みこむことになった。

4.2 “V着”と“在V”

前述したように、“着”も“在”も継続相のアスペクトマーカと見做されるが、“着”は静的な継続相(状態の継続)を表すのに対し、“在”は動的な継続相(動作の継続)を表す。また、通常、動作の継続を表すのに小説の地の文では“着”が多く使用され、日常会話では“在”のほうがよく使われる傾向が見られる。

(19)声音消失了。不，燕宁感到那声音只是停在一个地方，在黑暗中窥视着。(轮椅上的梦)

音が消えた。いや、消えたのではなく、止まって様子をうかがっているようだ。

(20)不知是这些老乡在骗我们，还是临来时学校的工宣队骗了我们。(插队的故事)

農民がわれわれに嘘をついているのか、それとも来る時に学校の労働者宣伝隊が嘘を言ったのか。

例文(19)のように、動詞に“着”をつく場合、その動詞が動作を表す動詞であっても状態を表す動詞であっても、基準時点において続いている場面を静的な場面として捉え、その場面に対する描写である。それに対し、例文(20)のように、動詞の前に副詞の“在”が使

用される場合においては、基準時点において続いている場面が動的な場面として捉えられ、動的な場面に対する記述のように思われる。

(21)张嫂站在人群后面，也在呆呆望着。(关于女人)

また、中国語では、例文(22)のように“在”と“着”が同時に使用される場合もある。このような場合、“在”がなくても動作継続の意味が依然として表されうるが、“着”がなければ非文となる。それは、中国語の音韻的な特徴によったものである。呂叔湘(2002)はそれについて次のように述べている。

现代汉语里有很多单字，不但不能单独说，在句子里也难以构成一个句法单位。另外有些单字，在句子里有时候不能不承认它自成一个句法单位，可是很难单说。(p.416)

在现代汉语里，单音节成分的活动是常常受到一定限制的。(p.418)

しかし、基準時点における動作・変化の結果が存在すること、つまり、状態のパーフェクトを表す場合には“着”しか使用できない。

(22)小姑娘小鼻子小眼长得挺秀气，脸被抹脏了，头发上挂着碎黄蒿。(插队的故事)

女の子の小さな目と鼻はとても可愛らしく整っているが、顔は涙と土で汚れ、髪にはヨモギのくずがついていた。

4.3 “V过”

動詞につく“过”には二つあり、アスペクトマーカの“过”と動詞補語の“过”である。アスペクトマーカの“过”は一般的に経験相を表すとされているが、経験というのは過去に生じた場面の効力がある事実として基準時点において存在すると理解できるため、コムリーの述べた経験のパーフェクトに一致する。そのため、経験相はパーフェクトの一つと見られることができる。

アスペクトマーカの“过”と動詞補語の“过”との違いと言えば、最も明白な違いはその直後に更に完成相のアスペクトマーカの“了”が生じうるかどうかことである。

(23)随随比我大几岁，念过三年书。(插队的故事)

随随は私より数歳年上で、三年間学校に通ったことがある。

(24)他们先在城里请过了客，便到西郊来休息。(关于女人)

北京市内で知人を招いて新婚のお披露目をすませてから、ふたりは西郊にきて休んだ。

5. まとめ

本稿では日本語と中国語のアスペクトについて、アスペクチュアリティーと明白に区別した上で改めて論じた結果、次のようにまとめた。

日本語と中国語のアスペクト

アスペクト体系		日本語における文法的な形式	中国語における文法的な形式
完成相	完成	シタ	了
	未完成	スル	×
継続相	動作の継続	シテイル/シテイタ	在(動的、会話文) 着(静的、地の文)
	状態の継続	スル、シテイル/シテイタ	着
パーフェクト	動作パーフェクト	アスペクトではない	了
	状態パーフェクト		了、着
	経験のパーフェクト = 経験相		过

表 2

例文出典

本文で使われている例文の中、出処が明示されている例文とその訳は全部『中日対訳コーパス』(北京日本学研究中心2003)から引用したもので、出処が明示されていない例文は筆者の作例である。

参考文献

バーナード・コムリー1976、1988『アスペクト』(山田小枝訳)むぎ書房

木村英樹1982「中国語」『講座日本語学11 外国語との対照』

工藤真由美1995『アスペクト・テンス体系とテキスト』ひつじ書房

奥田靖雄1977「アスペクトの研究をめぐって 金田一的段階」宮城教育大学『国語国文』

8、奥田1995に所収

1993「動詞の終止形(その1)」『教育国語』2・9むぎ書房

須田義治2010『現代日本語のアスペクト論』ひつじ書房

寺村秀夫1982『日本語のシンタクスと意味』()くろしお出版

戴耀晶 1997《现代汉语时体系统研究》浙江教育出版社

龚千炎 1995《汉语的时相时制时态》商务印书馆

吕叔湘 1999《吕叔湘文集第一卷》商务印书馆

2002《汉语语法论文集》商务印书馆